

音楽との出会い

大島 ミチル

みなさんは自分の幼いころの事をどれくらい覚えていますか？

私は二歳、三歳のその中でも音楽が本当に大好きで歌ったりオルガンを弾いていた事を、とてもよく覚えています。第一回目のコラムは私が音楽を始めるきっかけとなったその頃の事をお話ししたいと思います。

私が幼い頃は、幼稚園が終わるとその場所（幼稚園）が音楽教室に模様が変わりしていたものです。私が幼稚園に入るよりも前に、私の一つ上の姉がこの音楽教室に（当時はオルガン教室と言って言っていた様な…）通っていました。私も母に連れられて見学で行っていたのですが、どうもそこで習っているどの生徒よりも音楽が好きだったらしく、うるさくて、先生が「この曲は何ですか？」と聞くと、真っ先に（生徒でもないのに）「幌馬車！」ほろばしやって答えていたんですよ。

実はこれは私自身よく覚えている光景なんです！他にも「月夜」という優しい曲とか：

それで、私が毎回あまりにもうるさいので、私が幼稚園に入るとすぐに母親が私を音楽教室に通わせる事になりました。それが音楽を始めたきっかけです：

実は音楽を始めるよりも更に前ですから二歳の頃かな？…私は絵を習い始めました。これもまたきっかけは、家中のふすまに姉と弟と私の三人で落書きをしまくって…さすがにあきれた母親が絵を習いに連れていったのですが、早生まれで体の小さかった私は、ガバン（絵の道具）を持って歩くとガバンが地面をこすってしまっただけで大変！それでも絵の教室に通うのが楽しくて毎週姉と仲良く行っていました。絵は小学校六年生の頃まで続けましたから約十年間習っていたのですね。先生がご病気になられて止めてしまいましたが、とても楽しかった思い出です。

さて、話は戻って…音楽教室に通い始めて何が大変だったかと言うと、昔は足踏みオルガンだったのですが、体の小さかった私は踏むところまで足が届かないんです！それで、椅子に深く腰掛ける事が出来なくて…あきくく腰掛けるとそのうち椅子からお尻が落ちてしまうのです！何度も転げ落ちました。それでも音楽を止めようとはその頃は一度も思いませんでした。それから数年後、後悔する事になるのですが…それはまたお話ししますね。

そして、音楽教室を卒業する時に母に「ピアノとエレクトーンのどっちをやりたい？」と尋ねられて、沢山の音色が出るエレクトーンに興味を持った私はすぐに「エレクトーンがいい！」

って答えました。きつと、その一言がこういう人生の（仕事の）大きなきっかけになってしまったのでしょね…

習い事は、絵と音楽：それ以外にも書道と水泳でしたが、大人になって絵は映像へ、書道は鉛筆を握って譜面を書くという行為へ、水泳は基礎体力をと、どれも今の仕事と繋がっている様に思います。その時は何も考えないでやっていた事でも、後になって役に立ったり繋がったり広がったり：自分では無駄かな？と思っけていても、無駄な事って人生にはないのかもしれないかもしれませんね？楽しい事も辛い事も：

小学生編

以前、私が生まれた時から幼稚園時代までのコラムを書いた事がありますが、久しぶりにその続きを書きましょう！

小学生に入ったばかりの私は三月生まれという事もあってとても小柄な子供でした。でも、その面影は今でもそのまま！何故ならば：数年前、スタジオで子供時代同じ社宅に住んでいた友達に会いました。ある有名な歌手のマネージャーをしている彼女がそこで手に持っていたの

は、なんと、小学生の低学年の時の皆で並んで撮った写真でした。スタジオの演奏家たち曰く「全く変わっていないね、そのまんまじゃない！」

と言われるくらい成長のない私ですが、さて小学校二年生の時に始めたエレクトーンですが、最初は嫌で嫌でしかたがなく、その頃の一行日記？には「明日になったら止めるとお母さんに言おう」と書いてありました。ともかく、同じクラスの男の子がいつも泣いてばかりで、しかも演奏する曲もつまらなく、しかたがなく通っていたのです。

ところが約一年後のある時、いきなり一人新しいクラスに移らされたのですが、その時のシヨックは今でもよく覚えています。ともかく皆上手い！しかも初めて聴くお洒落な曲ばかり。それから今までの退屈なレッスンがいきなり楽しくてしょうがない毎日に変ったのです。その時の本はいろんなシリーズに分かれました。「映画音楽集」「ビートルズ集」「ラテン音楽集」「ロック音楽集」などなど…。ともかく弾く曲弾く曲面白くしょうがなかったのです。全部の本の全曲をマスターしたくて、毎日夜中の三時頃まで練習していた記憶があります。（エレクトーンはヘッドホーンが使えますから深夜でも練習可能なのです。）

毎日学校から帰ると、まずは近所の友達とバレーボールしたり鬼ごっこしたり駆けずり回って、そして夕食まで勉強をして、そして夕食後はひたすら練習をする毎日でした。夏休みにな

ると、港から船に乗って小さな島へ行き、そこにある水泳訓練施設に通うのが夏休みの日課でもありました。「前見てるの？後ろ見てるの？」と冗談で言われるくらいに真っ黒！その頃体をたっぷり鍛えたおかげで、私の姉弟も全員未だに風邪を引く以外の病気は全くしないという健康体に育ちました。（今ではその島も埋め立てられて無くなってしまいました）

もう一つ、記憶にある事では、父親が買って来た本を（二十ページくらいある本だったと思います）翌日までに全部のせりふ（文章）を完璧に暗記して、夕食後に発表するという事を何故だかやらせられていました。ともかく、学校の学芸会でもやって先生が驚いた程、記憶力というのか集中力は並外れたものがありました。

さて、エレクトーンの事で私自身に大きな変化をもたらしたのは、コンクールに出場するという事でした。小学四年生の時に初めて予選に出させられました。もちろん予選落ち！でも、それをきっかけに今まで以上に猛練習をするようになったのです。翌年の五年生の時には県大会で三位、九州大会に出場、六年生からは自分のオリジナル曲を演奏するという規則になったために作曲まで始めたのです。練習する曲もほとんどの本をマスターしてしまったために演奏したい曲が無くなってしまっただけで、好きな音楽を耳コピーするという事を毎日枕元に置いたカセットテープでやっていました。実はクラシックは全く聴いていなくて、シカゴやチェイスや

BSTというブラスロックが大好きでした。その上、ELPやモダンジャズ、映画音楽（アラビアのローレンス）、大河ドラマのテーマなどかなりスケールの大きい音楽も好きで演奏していましたから、今の私の音楽にはかなり影響を与えているのではないのでしょうか？今の私しか知らない人は「クラシック育ち」だと思っっている人がかなりなのですが実は全く違って、ロック出身だったのです！

子供の頃に母にはよく言われました。「もっと静かな音楽を演奏してくれない？」と。それからもう一つ大人になって母に言われたせりふの一つに「あの頃、家族皆で旅行しようと話している時にあなたこう言ったの覚えてる？：『皆で行っておいでよ。私は一人お留守番してエレクトーン練習しているから！』って言ったのよ」と。えっ？どうしたかって？もちろんちゃんと家族全員で旅行に行きましたよ。でも、それくらいに音楽が好きだったのですね。

今回は小学生編でした！
では続きはまた今度！